

ほんばこ



愛媛県立今治西高等学校図書委員会 2020



秋風が清々しくなり、山や公園の木々も少しずつ色づいてきました。食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、皆さんはどのような秋を過ごしていますか。ぜひ、この秋には読書に親しんでみてください。

10月かんをづき しくればき はつしもづき(神无月、時雨月、初霜月)

二十四節気

かんろ 寒露 8日

露が冷たく感じられる頃のことです。空気が澄み、夜空がさざえと月が明るむ季節です。

そうこう 霜降 23日

朝夕にぐっと冷え込み、霜が降りる頃です。山野の景が鮮やかに色づきます。

図書委員からお薦めの本

『最後の医者は桜を見上げて君を想う』 二宮敦人 著 TO文庫

ヒトには必ず死が訪れる。ただ、誰もが自分の余命がわずかと知れば動揺してしまう。そんな死の現場で、死生観の対立する医者たちと患者の生きざまの物語だ。

この作品では命の長さだけが問題ではなく、死を前にした究極の状態はどう生きるかがテーマとして問われている。いつ訪れるかわからない死であるがゆえに、自分達は今を全力で生きることが大切だと気付かされた。「生きる」という意味を考えさせられる物語なので、ぜひ読んでみていただきたい。

(本の裏表紙を参考にした。) (2年生女子)

読書週間が10月27日から始まります。

終戦まもない1947年(昭和22)年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。そのときの反響はすばらしく、翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日(文化の日を中心にした2週間)と定められ、この運動は全国に広がっていきました。

そして『読書週間』は、日本の国民的行事として定着し、日本は世界有数の「本を読む国民の国」になりました。

今、電子メディアの発達によって、世界の情報伝達の流れは、大きく変容しようとしています。しかし、その使い手が人間であるかぎり、その本体の人間性を育て、かたちづくるのに、「本」が重要な役割を果たすことは変わりありません。

暮らしのスタイルに、人生設計のなかに、新しい感覚での「本とのつきあい方」をとりいれていきませんか。

『読書週間』が始まる10月27日が、「文字・活字文化の日」に制定されました。よりいっそうの盛りあがり、期待いたします。

(公益社団法人読書推進運動協議会「読書週間の歴史」より)

○ 12月図書委員会主催 図書館読書会のお知らせ

1 日時・場所 令和2年12月7日(月)放課後 本校図書館にて

2 題材 アンドレ・ジッド『狭き門』

本校図書館に集団読書用テキストとして購入してあるので、事前に借り出して読んでみてください。各種文庫に入っているので、自分で買って読んでかまいません。

○ 読書感想画中央コンクール

・読書感想画とは…

「読書感想画コンクール」は、「読書の感動を絵画表現することにより、児童・生徒の読書力、表現力を養い、読書の活動を振興すること」を目的に1983年、近畿学校図書館連絡協議会と毎日新聞社との共催で近畿地域から始まりました。86年、関東地区に拡大され、独自の指定図書の選定を開始。これまで後援だった全国学校図書館協議会が共催することになりました。89年に、関東・北信越の一部と、東海、中国(山口県を除く)、四国地域に拡大し、「読書感想画中央コンクール」として一本化されました。第25回から北海道が加わり、現在38都道府県で実施しています。

平成の時代は、子どもたちや学校現場を取り巻く環境は大きく変貌しました。デジタル機器の普及に伴い、グローバル化、情報化社会が急速に発展し、環境、貧困、人権、平和など多くの諸課題が身近な問題として浮き彫りになりました。読書感想画中央コンクールの応募作品の中にも、未来へつながる世界、地球づくりへの思いが込められたものが増えてきました。令和の時代も、子どもたちの想像力と表現力の結晶である読書感想画を通じて、今を生きる子どもたちの思いを社会に発信して参ります。

・図書の紹介

1. 『もえぎ草子』 著者：久保田香里 出版社：くもん出版

・あらすじ…清少納言や流れの歌うたいとの出会いを経て、萌黄は言葉を伝える「紙」の魅力を知っていく……。役所での下働きから路上暮らしまで、『枕草子』の裏側にいたかもしれない少女の、波乱万丈の物語。

2. 『王の祭り』 著者：小川英子 出版社：ゴブリン書房

・あらすじ…女王暗殺の計画に巻き込まれた少年ウィル。妖精の力を借りて女王を助けようとするが、時空の歪みに投げだされ……。16世紀のイングランドと日本を舞台に繰り広げられる歴史ファンタジー。

3. 『ゴースト』 著者：ジェイソン・レノルズ 出版社：小峰書房

・あらすじ…父親に銃を向けられ、家から逃げ出した過去がある少年キャス。足の速さから、自分でつけた呼び名はゴースト。陸上チームに入った彼は、仲間との関係を通し、自分の才能と弱さに向き合っていく。

4. 『戦場の秘密図書館 シリアに残された希望』 著者：マイク・トムソン 出版社：文溪堂

・あらすじ…シリア内戦下の町ダラヤ。日常的な空爆、食量の不足……絶望的な状況の中、明日への希望をつないだのが、図書館、本だった。戦場となった町の地下図書館を守りぬいた若者たちのノンフィクション。

5. 『よみがえった奇跡の紅型(びんがた)』 著者：中川なをみ 出版社：あすなる書房

・あらすじ…沖縄を代表する染色技法の紅型(びんがた)は、琉球王朝時代に完成したが、明治末期には衰退の一途をたどっていた。紅型に魅せられた3人の芸術家による奇跡の復活を書いたノンフィクション！

(読書感想画中央コンクール公式サイトを参照)